



26年産米からの政策転換について の所感は

村尾明利 議員

町長 地域の特色や努力が生かされる
政策なら結構に思う



問 平成26年産米政策の概要が示された。農家は、たびたびの農政転換に翻弄され、経営の不安定化を余儀なくされているのが現状である。今回は、主食用米の消費の減少やTPP妥結を目前に、過剰作付による米余りと米価の下落が差し迫った問題とされ、大幅な米政策の見直しを示された。こうした米政策の転換についてどのような所感か。

答 今回の政策転換は、

全国一律の補助金や、平野部も山間部も一律の政策、と言った事でなく、地域の特色やそこに住む人間の努力が生かされる政策の見直しであれば結構な事と思っている。

問 仁多米ブランドへの

影響、本町の米政策の転換・変更はあるか。また、国は、飼料米生産を促す方向にあるが本町の取り組みは、

答 本町は、飼料米でなくコシヒカリがしっかりと作れるような対応を考えたい。コシヒカリで加工用米に回すなどの対応も必要。奥出雲の水田は、きちんと米づくりができるようあらゆる手立てを講じて、減反、生産調整面積の減少に取り組みたい。



雪でおおわれた水田、今年の米づくりは

問 去る11月10日に島根原子力発電所の重大事故

を想定した災害訓練が県と松江市の主催で実施された。本町にも松江市島根地区の住民約150人がバスに乗って避難を想定して来町した。後に、訓練参加者が、避難先の町の情報・知識が乏しくとても不安を感じたとの印象を語っていた。避難所として受け入れた本町側の所感は、また、日頃より、良好な交流が盛んであれば避難住民の不安払しょくになる。交流人口を増やす上でもこうした縁での交流を盛んにする考えは、

答 重大事故が無い事が一番だが、こうした訓練も必要。せつかくのご縁ができたので、日頃から、島根町と奥出雲町で交流し、それぞれの地域について理解を深めることは必要。何らかの交流事業等も考えていきたい。

問 本町は、仁多米・仁多牛をはじめ、様々な農畜産物の生産が豊かな豊稷の町である。開パイ畑での企業参入による新た

な作目の挑戦や各所の加工場自慢の加工食品、トルコキョウなどはじめ様々な花卉類等々本町自慢の一品は数知れない。こうした農畜産物の売込み強化で町外や県外からの外貨獲得が農業活性化の必須要件である。まずは、本町の農業の底力を自らが自覚し、そして町内外にアピールする、農業祭等のイベント開催が必要では、

答 現在、秋については、さまざまイベントが計画されている。町内では米1グランプリや新そば祭り、味わいロード等での農産物の販売促進、収穫期の時期には、緑原記念館や可部屋集大成でも広島の人と奥出雲の食でもなすイベントもある。産直市など幅広く奥出雲ブランドが発信されている証した。収穫祭とか農業祭のような複合イベントについては、各種の農業団体が組織している町の産業振興協議会などで検討する。